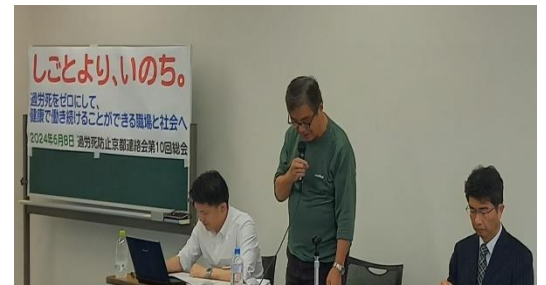


今号は、「①第36回京都労災被災者家族の会総会&過労死防止京都連絡会第10回総会、②第31回京都労働安全衛生学校、③過労死・ハラスメント労災110番電話相談活動、④この間の働くもののいのちと健康をめぐる内外情勢のザッピング、⑤今月のお勧めの2冊」です。

## I 第36回京都労災被災者家族の会総会&過労死防止京都連絡会第10回総会、開催！

6月8日午前、「第36回京都労災被災者家族の会総会」が開催されました。全国過労死を考える家族の会の報告を、同会の代表をされている寺西笑子さんが行い、寺西さんは今問題となっている「労災支給決定の使用者による取消し訴訟のゆくえと全国家族会のとりくみ」について詳しく報告し、この問題の重要性を強調しました。総会は1月に亡くなられた中島清美さんに代わって、会長に荻野幸夫さんを選出しました。

6月8日午後、「過労死防止京都連絡会の第10回総会」が開催されました。総会に先がけて、京都労働局の多賀谷千尋監督課長が講師をされた、学習会「過労死等の現状と国の過労死等の防止対策の取り組み、過労死等の労災基準の改正について」が行われました。多賀谷課長は、70Pに及ぶ膨大な資料をコンパクトにわかりやすく説明されました。総会では、新しく京都労災被災者家族の会の会長に就任された荻野幸夫さんが、主催者あいさつをおこないました。京都労働局の小笠原哲治労働基準部長が来賓あいさつを行った後、議案の提案を、古川拓事務局長（過労死弁護団）が行いました。討論では、①個人会員で幹事の新谷一男さん、②京都国公の矢野芳彦事務局長、③全国過労死家族の会の寺西笑子代表（2回発言）、④京都職対連の新田昌之会長（京都自治労連副委員長）、⑤過労死弁護団の古川拓弁護士、⑥京都職対連の芝井公会長が発言しました。次期役員では、今年1月に急逝された中島清美さんに代わって荻野幸夫さん（京都労災被災者家族の会会長）が代表となり、幹事では尾崎彰俊弁護士（自由法曹団京都支部・京都第一法律事務所）から尾崎文紀弁護士（同）に交代しました。総会終了後、次週6月15日に行われる「過労死110番」電話相談活動の宣伝行動を西院で行いました。



## III 第31回京都労働安全衛生学校、開催！



6月15日、京都総評との健京都センターの共催で、「産別・地域におけるいの健・ローアン活動家の育成」を目的にした「第31回京都労働安全衛生学校」が開催されました。開校あいさつを京都総評の労安対策委員会責任者の中野宏之副議長（京教組委員長）が行いました（司会進行は京都総評労安対策委員会委員の福水隆化学一般京滋福地本委員長が行いました）。第1講義が「労働安全衛生法の基本と職場のローアン活動の進め方」で、講師はいの健京都センターの岩橋祐治事務局長、第2講義はAとBに別れ、A講義が「ハラスメント防止法と職場のハラスメントをなくすとりくみ」で講師はメンタルサポート京都の飛驒佳美事務局長、B講義が「これって労災？～労災保険法入門」で講師は京都職対連の芝井公事務局長でした。参加はのべ22人でした。岩橋講師は、「①働くもののいのちと健康をめぐる最近の情勢、②労働安全衛生法の基本を学ぶ、③労働者・労働組合の『いの健・ローアン』活動の進め方」を、飛驒講師は、「①パワハラスの現状とパワハラ防止に関する法改正、②セクハラ・マタハラと対策の歴史、③ハラスメントの問題点、事業主の責務と講ずべき措置、現行法の問題、④職場におけるとりくみの進め方、⑤カスタマーハ



ラスメント」を、芝井講師は、「①労災・職業病と政治・経済の関わり、②労災保険の基本的な説明、③メリット制の問題、④過労死等（脳・心臓疾患、精神障害）の労災認定、⑤労災認定闘争と支援事案」を講義しました。

### Ⅲ 「過労死・ハラスメント労災 110 番」全国いっせい電話相談



6月15日、過労死弁護団全国連絡会議は、「**過労死・ハラスメント労災110番**」**全国いっせい電話相談活動**を行いました（京都では過労死弁護団と京都職対連の共催で実施）。全国35都道府県で行われた相談の結果は、相談件数の総数が215件で、内訳は労災補償相談が40件、パワハラ・過重労働相談が129件、その他が46件でした。労災補償相談の内訳は、脳・心臓疾患7件、自殺・精神障害24件、その他のストレス疾患1件、その他8件で、パワハラ・過重労働相談の内訳は、パワハラ88件、長時間労働33件、深夜勤務2件、その他14件で、セクハラは0件でした。京都の相談は、労災補償1件（自殺・精神疾患）、長時間労働1件、パワハラ1件、その他1件の合計4件でした。

### Ⅳ この間の働くもののいのちと健康をめぐる内外情勢のザッピング

#### 1 ジェンダーギャップ118位！；G7（主要7カ国）で最低！韓国・中国を下回る！

6月12日、世界経済フォーラム（WEF）は、世界各国の男女の格差を示す「**ジェンダーギャップ指数**」の2024年度版を公表しました。日本は、総合ランキングで146か国中118位と、過去最低だった昨年度の125位とほとんど変わりませんでした。G7では引き続き最低で、韓国（94位）や中国（106位）を下回っています。



#### 2 イスラエルのガザに対するジェノサイド攻撃をめぐって



6月6日、ユニセフ（国際児童基金）は、「**子どもの食糧貧困**」に関する報告書を公表し、ガザでは成長に必要な食糧を十分得ることができない子どもが9割に上っていることを明らかにしました。12日、国連の独立国際調査委員会は、ガザ攻撃に関する報告書を発表し、今回の攻撃の「**占領の強化・拡大の危険**」を指摘し、イスラエルが「戦争犯罪、人道に対する罪、国際人道法と国際人権法違反を行った」と結論付けました。18日、国連は「**子どもと武力紛争**」に関する報告書を公表し、イスラエルを「子どもの権利を著しく侵害した国」のリストに初めて掲載しました。

#### 3 2024年度通常国会閉幕＆「骨太の方針2024」

6月21日、**今年の通常国会が閉幕**しました。最大の問題となった自民党の裏金事件の真相究明は全く行われず、逆に政策活動費が合法化されるなどの政治資金規正法の改悪が強行されました。8兆円の大軍拡予算、次期戦闘機の共同開発・武器輸出のための条約、自衛隊の統合戦司令部の創設、経済秘密保護法、地方自治法の改悪、食料供給困難事態対策など、「**戦争国家**」づくりの暴走が強められ、共同親権の導入や入管法の改悪なども行われました。労働者・国民のいのちと健康、日本の憲法と平和を守っていくためにも、政治を変えていく緊急性・必要性・重要性を、改めて痛感した通常国会となりました。同日、岸田内閣は、「**経済財政運営と改革の基本方針2024**」（骨太の方針）を閣議決定しました。「プライマリーバランスの黒字化」を掲げ、「全世代型社会保障」構築をめざす「改革工程」を着実に推進するとして、医療・介護をはじめとする社会保障制度の全面改悪を進める一方、大軍拡・大企業奉仕はさらに推進する内容となっています。



#### 4 大企業の内部留保、過去最大の537兆円に！



6月3日、財務省は、**2024年1～3月期の法人企業統計**を発表。しんぶん赤旗の試算によると、資本金10億円以上の金融・保険業を含む**大企業の内部留保**は537.6兆円と過去最大を更新しました。同期の金融業と保険業を除く**全産業の経常利益**は前年同期比15.1%増の27兆4千億円で、増益は5期連続、1～3月期としては過去最高でした。



## 5 認証不正問題で、新たにトヨタなど5社で不正判明！

自動車の大量生産に必要な認証「型式指定」をめぐる、ダイハツ工業などで認証不正問題が発覚したのを受け、自動車メーカーなどが行った社内調査で、国土交通省は、6月3日、トヨタ自動車、ホンダ、マツダ、スズキ、ヤマハ発動機の5社（38車種）でも不正があったと公表しました。国民が安心して車に乗ることができるのかどうか問われる重大問題です。



## 6 実質賃金25カ月連続のマイナス！ 消費者物価33か月連続の上昇！！



6月5日、厚生労働省は、2024年4月の毎月勤労統計調査（速報、従業員5人以上）を発表。現金給与総額（名目賃金）に物価の変動（2.9%上昇）を反映させた**実質賃金**は、前年同月比0.7%減少で、マイナスは25カ月連続と過去最長を更新しました。基本給と残業代などを含めた**名目賃金**は、労働者一人平均で2.1%増の29万6884円でした（正社員ら一般労働者が2.0%増の37万8039円、パートタイム労働者が2.0%増の10万8358円）。6月21日、総務省は、**2024年5月の全国消費者物価**が前年同月比2.5%上昇したと発表しました。前年同期比での上昇は33か月連続となりました。

## 7 年引き下げ違憲訴訟で、最高裁は「上告棄却」の不当判決！

5月31日、6月3日、7日、最高裁判所第2小法廷は、この間全国でたたかわれてきた**年金引き下げ違憲訴訟**の、京都を含む21の事案について、「上告棄却」の不当判決を言い渡しました。年金者組合京都府本部の山本和夫委員長は、判決を受けて、「（この間のたたかいで）高齢者の低年金、とりわけ女性の低年金を可視化した」、「よりよい年金制度の実現をめざしてさらに運動を進めていく」と決意を語っています。



## 8 学校給食；自治体の4割で何らかの給食無料化が！（全員対象は547自治体！）



6月12日、厚生労働省は、**小中学校などの学校給食に関する全国調査の結果**を公表しました。2023年度時点で、予定を含め同年度中に全国の775自治体（全体の43%）が何らかの形で給食の無償化を実現。2023年9月時点で、無償化を実施していると回答した自治体は722自治体、うち547自治体で小中学生全員が対象（2017年度調査の76自治体から大幅に増加！）、145自治体は多子世帯に限定するなどの一定の要件有り。2023年度5月時点の**給食実施率**は、小学校全体で98.8%（公立99.5%、私立43.5%）、中学校全体89.8%（公立97.1%、私立8.2%）でした。

## 9 2023年の出生率、過去最低の1.20に！

6月5日、厚生労働省は、**2023年の人口動態統計**を公表。1人の女性が生涯に産む子どもの推計人数を示す**合計特殊出生率**は1.20で、昨年2022年の1.26を下回り、過去最低を更新。低下は8年連続。東京は0.99で、全国で初めて1を割り込みました。年間出生数は72万7千人で、出生数から死亡数を差し引いた**人口自然減**は過去最大の84万9千人。少子化と人口減に歯止めがかからない現状。



## 10 PFAS許容量、欧州の60倍！

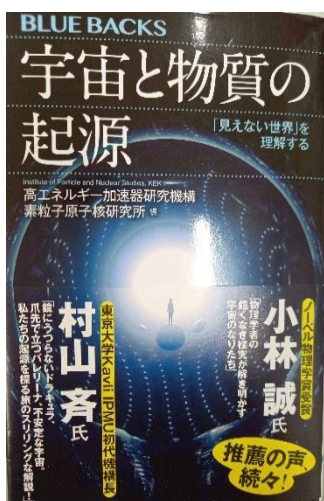
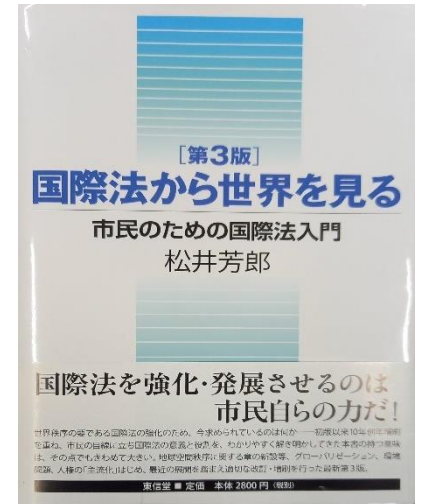
6月20日、内閣府の食品安全委員会の作業部会は、発がん性などが指摘されている「**有機フッ素化合物（総称：PFAS）**」の許容摂取量を定めた評価書案を、「概ね了承」しました。その許容摂取量は、欧州の60倍以上もゆるいもので、発がん性や新生児の体重増加や免疫の抑制、脂質異常などの、さまざまな健康影響の指摘を「証拠不十分」として却下しています。

### いの健京都センター第31回定期総会&25周年記念講演会

- 開催日時・場所：8月31日（土）午後1時30分～5時15分、ラポール京都四階・第12会議室、
- 第26回定期総会（13：30～15：30）
- 25周年記念講演会『『いの健』結成25年を新たな出発点とした目標と課題』（仮題）（15：45～17：15）  
（講師：いの健全国センターの埜田和史理事長（びわこリハビリテーション専門職大学教授）

## V 今月のお勧めの2冊：「国際法から世界を見る－市民のための国際法入門(第3版)」 「宇宙と物質の起源－『見えない世界』を理解する」

まず、国際法学者の松井芳郎名古屋大学名誉教授の「市民のための国際法入門－国際法から世界を見る(第3版)」(2011年3月初版、東信堂、2800円＋税)；ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザに対するジェノサイド攻撃という深刻な事態の推移を見て、国際社会はこうした横暴＝違法な武力行使に何もできないのかと痛切に思い、国際法を勉強し直してみようと、本書を入手し、一読しました。本書は、「国際関係や国際法に関心を持つ一般の市民の方々」を対象に、「市民の目線から国際法を学ぶこと、私たち一人ひとりのより平和でより良い暮らしを実現するために、国際法を活用し国際法に働きかける観点から国際法を学ぶ」ことをねらいにしています。全13回の講義の形式で書かれていますが、特に、第10回「どのように戦争をなくすか？－安全保障の考え方」、第11回「戦闘中でもルールはあるの？－国際人道法の発展」、第12回「世界の中で日本はどうする？－国際法と日本の立場」、第13回「私たちに何ができるの？－国際法と市民の役割」が興味深く、勉強になりました。少し難しいですが、「世界秩序の要である国際法を強化・発展させるのは市民自らの力だ！」という視点が貫かれた好著です。



次に、高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所「宇宙と物質の起源－『見えない世界』を理解する」(講談社ブルーバックス、2024年3月初版、1200円＋税)。編集者は、「人にとって、哲学＝“ものの見方、考え方”がほんとうに大切かつ大事」であり、それは「最新の科学の到達点に立って、それに裏打ちされたものでなければならぬ」と考えています。そうした科学＝サイエンスの最新の到達点を、わかりやすくかつ面白く学べるのが本書。「宇宙論の基礎から最先端まで、これ一冊でよくわかる！」とあり、『『全ての根源』を明らかにしていくサイエンスの旅』として、「138億年前、点にも満たない極小のエネルギーの塊からこの宇宙は誕生した。そこから物質、地球、生命が生まれ、私たちが今ここに存在するまでには、数々の偶然が重なった。誰も見たことがない『この世界の起源』を人類はどのように解明してきたのか？そして、反物質、ダークマター、マルチバース…残された謎は、どこまで明らかになったのか？

一宇宙の謎に挑む研究者たちが総力を挙げて、基礎から最先端までを丁寧に解説」しています。本書は、目の不自由な人にも、現代基礎物理学の最前線の一端を理解してもらうことを目的に、「点字版」でも発行されています。本書の「終わりに」に、「サイエンスは時空を超えた人類の壮大なコラボレーション」であり、「その結果は人類の恒久な平和に用いられるべき」ことを再認識することに、本書が少しでも貢献できれば、とあったことが、強烈な印象として残りました。

### 第19回 Stop! ザ・働き過ぎ!!－働き方を見直す京都集会2024

○ 開催日時・場所：7月13日(土) 午前10時～午後4時、ラポール京都の2階ホール及び4階会議室

○ 主な内容：

- ・ 全体会(10:00～12:30、2階ホール)；記念講演「『人間らしく働くこと』とは何か？世界の労組のたたかいに学ぶ」(講師は全労連の布施恵輔事務局次長)／基調報告／特別報告
- ・ 分科会(13:30～16:00、2階ホールと4階の第1・7・9会議室)；第1分科会「ハラスメント」、第2分科会「労働時間」、第3分科会「労働安全衛生」、第4分科会「非正規労働者の処遇改善」